



2019年度 ドコモ市民活動団体助成事業 活動成果報告書

2020/12/28

| 団体名 | NPO法人 ながのこどもの城いきいきプロジェクト | 活動タイトル | ながのこどもわくわくカフェ | |
|--|--|--------|--|---|
| <p align="center">望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）</p> | | | <p align="center">■ 活動風景</p> | |
| <p>●地域の望ましい社会状況(ビジョン)</p> | <p>当法人の実現したいビジョンは、「子ども達一人ひとりが、自分の未来に夢と希望を持ち、いきいきと生活ができる社会」である。 現在の子どもたちは、保護者の病気、生活困窮、ひとり親、障がい等子どもたちが置かれた環境により、学習環境、生活経験など様々な影響を受け、自己肯定感も低い状況がみられる。子ども達一人ひとりが、おかれた環境にかかわらず、自分の未来に夢と希望を持ち、いきいきと生活ができる社会をめざす。</p> | | <p>ソーシャルディスタンスを保ち再開した食事風景</p> |  |
| <p>●団体の社会的役割(ミッション)</p> | <p>そのために、0歳から18歳までの子どもへの切れ目のない継続した支援が必要であり、様々な悩み（保護者の病気、生活困窮、ひとり親、障がい等）を持つ保護者や子ども達が気軽に通い、「相談や交流」「学習支援」「食事の提供」等が受けられる一場所多様な居場所をつくり、運営を地域や行政、他の団体、NPOと連携し、それぞれの専門性を生かして行う。また、安心・安全に子育てができる環境や、子どもが健やかに成長できる体制・ネットワークを構築する。</p> | | | |
| <p>●団体の活動基盤</p> | <p>人材の確保と育成；地域、高校・短大・大学と連携し、積極的にボランティアを育成するとともに活動の中心となる常勤スタッフを育成する。 物的資源；地域企業を賛助会員として巻き込み、事業で必要とする食材や、物品提供をしてもらえるようなネットワークを構築する。 活動資金；地域と居場所運営協議会等を組織し支援体制、活動場所の無料貸与・減免措置等の経費削減を図り、自主財源比率を高める。 ナレッジ；ながのこどもわくわくカフェの活動成果を「居場所運営マニュアル」として作成し、他地域にも提供する。</p> | | | |
| <p align="center">■ 活動報告</p> | | | <p align="center">■ 1年間の目標に対する達成状況(まとめ)</p> | |
| <p>●子育てサロン(びーかーぼー) 3月～5月は、新型コロナウイルス感染拡大のため活動休止。その後、感染対策をしっかりと、籠りがちな親子にリラックスできる場の提供を心掛けた。安心安全な場でのミニ講座等内容もコロナ対応し、出てこられる場所を目指した。</p> <p>●こどもいきいきカフェ(学習支援) 3月、4月は、新型コロナウイルス感染防止のため中止。5月～6月はZOOMを使用し中学生への学習支援を行った。6月16日からコロナウイルス対策を徹底して通常運営を再開。6月～11月の6か月で17回実施し、新型コロナウイルスの感染拡大状況をみながら時間短縮などの調整を行った。</p> <p>●こどもいきいきカフェ(食事支援) 長野県栄養士会、長野女子短期大学食物学科と連携し、食事支援を月3回実施した。 新型コロナウイルス感染症対策による自粛期間には、地域の業者と連携しおにぎり・サンドイッチ弁当を配達し支援した。 台風19号被災時には、被災3日後から被災した子ども達の居場所を長野市北部スポーツ・レクリエーションパークに開設し、閉鎖されるまで一時預かり、学習支援を行った。その後も日曜日に古里児童センターで遊びの広場等を開設し、支援を継続した。</p> | <p>●子育てサロン(びーかーぼー) 新型コロナウイルスがある程度落ち着くまでは参加者も少なかったが、実施方法や内容等を検討したり広報をすることで、参加者も徐々に増えていった。コロナ禍で外出が自粛される中、孤立してしまう親子に安心できる場を提供できた。2回以上参加者67%だった。</p> <p>●こどもいきいきカフェ(学習支援) 新型コロナウイルス感染拡大に伴い、通常運営をできない期間があったが、Zoomを使ったオンラインでの学習支援をスタートさせるなど、新しい生活様式にあった運営方法を試行錯誤して実施してきた。通常運営を再開してからは、感染の心配を抱えながらも、遠方から参加して下さる参加者も増え、ニーズの高まりを感じている。学習支援ノウハウを持つスタッフを増員したことで、個別指導の質を高めることにもつながった。</p> <p>●こどもいきいきカフェ(食事支援) 2019年10月には、台風19号災害に見舞われ、2020年は新型コロナウイルス感染症により、子ども達にとっては大変な1年間であった。コロナ禍でありながらリピート率は100%であり、食事が楽しかったと91.7%の子どもは応え、子どもの心を満たす場ではなったと考える。また、1回に9～10食品のフードパントリーも4回行い、家庭の食事の栄養バランスにも配慮した。</p> | | <p>コロナ禍で試行錯誤の学習支援</p> |   |
| <p align="center">■ 事業を通じて得られたノウハウ</p> | | | <p align="center">■ 望ましい社会状況を達成するための課題</p> | |
| <p>●一場所多機能のこどもわくわくカフェを1か月に3回、3年間継続し開催した体験により、昨年の台風災害時、またコロナ禍の子どもへの支援をスピーディかつ適切に行うことができ、緊急時における子ども支援の体制ができた。</p> <p>●乳幼児から思春期までの子どもへ切れ目のない支援、また一人一人にあった支援を行うことができるスキルが身につく、教育委員会等とも連携した子ども支援につながった。</p> <p>●3年間の活動成果を「居場所開設マニュアル」「食事支援のレシピ集」「バーチャルを用いた学習支援マニュアル」としてまとめ、今後の地域の支援者の育成にもつながった。</p> | <p>当法人の実現したいビジョンは、「子ども達一人ひとりが、自分の未来に夢と希望を持ち、いきいきと生活ができる社会」である。 今回の事業を通して、台風被害などの自然災害やコロナ禍等により、緊急時等においても子ども達一人ひとりが、おかれた環境にかかわらず、自分の未来に夢と希望を持ち、いきいきと生活ができる社会をめざすためには、平常時からの地域でネットワークが課題である。</p> | | <p>この1年間の活動を通じて</p> | <p>当団体は、自然災害・新型コロナウイルス感染症感染拡大等緊急時における子ども支援のネットワークの構築を達成しました。</p> |
| <p align="center">■ 受益者の具体的な変化（効果測定等の結果）</p> | | | <p align="center">■ 活動成果のアピールポイント（自由記入）</p> | |
| <p>乳幼児から思春期の子どもまで、切れ目のない継続した支援が受けられ、健やかに成長できる。</p> | | | <p>乳幼児から思春期の子どもまで、切れ目のない継続した支援が受けられ、健やかに成長できる。</p> | |